

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 369 号	氏名	野中 隆
学位審査委員	主 査	小路 武彦	
	副 査	中島 正洋	
	副 査	中尾 一彦	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、胆道癌細胞への光線力学療法(PDT)の有効性をアポトーシス誘導効果に注目して <i>in vitro</i> 及び <i>in vivo</i> で検討したもので、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p><i>In vitro</i> 実験系では、胆道癌細胞株 NOZ を用い、光感受性物質であるフォトフリン処理後、レーザー照射 24 時間後に 50%の抗腫瘍効果をもたらす条件下で PDT を行い、その後 Hoechst33342 染色、DNA のアガロース電気泳動及びフローサイトメトリーにてアポトーシス細胞出現を検討し、更にアポトーシス誘導マーカーとして caspase-3 活性を測定した。また、<i>in vivo</i> 実験系としては、NOZ 細胞をヌードマウスに皮下移植し、フォトフリンを腹腔内注射後 PDT を施行し、その後種々の時間で得られた組織切片で TUNEL によりアポトーシス誘導効果の検討を行っており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>以上の検討の結果、<i>in vitro</i> 及び <i>in vivo</i> の両系に於いて PDT によるアポトーシス誘導効果が確認され、更に <i>in vivo</i> では PDT による血管遮断効果が生じ、それに伴うアポトーシス誘導も期待されることを示した点、これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように、本論文は胆道癌に対する PDT 治療法の進展に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			